

事業の背景・目的

現在、ペアが消失している宮城県の翁倉山域において、イヌワシの狩場適地を増やすことによる生息環境の改善と、各種モニタリングによる現状把握を行い、林業者との協働による中長期を見据えた保全計画を策定し、持続可能な地域産業としての林業の再興と、翁倉山域へのイヌワシの再定着の両立を図る。



事業の内容

生息環境の改善（イヌワシの餌狩場環境の創出）

- ・ 枯損木等の伐倒によるギャップ創出
翁倉山東麓のなだらかな稜線上にモザイク状に約0.5haを確保
- ・ 火防線跡の再整備による草地の創出
稜線上の旧火防線を延長約550m刈り払い
- ・ 林地残材によるノウサギの住処創出
ギャップ創出地点にて実施。実際にノウサギが利用したと思しき糞粒を確認

各種モニタリング調査

- ・ 大型猛禽類の生息状況モニタリング
南三陸広域で48回の調査を実施。クマタカ複数ペアの他、イヌワシも漂行個体を確認
- ・ 協定エリア等の施業状況モニタリング
協定エリアの現状を林小班単位でGIS化。施業履歴を蓄積する体制を確立
- ・ 餌動物の生息状況のモニタリング
センサーカメラにてデータ取得。ノウサギの撮影頻度が比較的高いことを確認。

保全計画の策定

- ・ 南三陸地域のイヌワシを取り巻く歴史的経緯と現状
- ・ イヌワシ再定着のために必要な狩場面積等の算出
- ・ 必要面積の確保に向けての目標設定
- ・ 関係諸団体の協力体制と役割
- ・ ボランティアベースの活動
- ・ 今後に向けての課題など..

得られた成果

南三陸地域森林整備推進協定による協定林を中心に、今回策定した保全計画に則ってイヌワシ生息環境の改善を着実に進め、イヌワシの生息と林業振興とが両立するふるさとの山の環境の再生を目指す。

なお、保全計画は固定的なものとし、フィードバックとバージョンアップを随時繰り返すものとし、そのためにもモニタリングを継続的に実施するための安定的な財源確保を図る。

同時に、危機的な状態にあるイヌワシの絶滅を回避する手法として、生息域外保全個体の積極的な利活用を関係各所と連携しつつ模索することとする。

